2023年1月28日　言語学フェス2023　発表資料

アミ語にも語彙的接頭辞はある？

今西一太（いまにし・かずひろ）

株式会社エス・アイ　代表取締役

ポスター発表の流れ

1. 語彙的接辞（LP）とは何か
2. 台湾原住民語のLPはどんな言語に報告されているか
3. LPの特徴
4. アミ語におけるLPの候補
5. アミ語の記述にLPという概念は活用できるか

（＋台湾原住民語の中でのLP比較を少しだけ）

語彙的接頭辞(lexical prefix: LP)とは

台湾原住民語のブヌン語などにおいて提案されている、通常は語彙項目で表されるような具体的な意味を持つ接辞の範疇（Nojima 1996 など）。

(1) **tu**-hna-un ma-la’la “shout again”

LP(verbally)-again-PV AV-shout

(2) **‘it**-uhna-un ta’aza “hear (something) again”

LP(hear)-again-PV AV.hear

(3) **sau**-hna-an ma-saiv “give (something to someone) again”

LP(give)-LV AV-give

※グロスは発表者によって変更してある。AV: agent voice, PV: patient voice, LV: locative voice。動詞が文頭で、上記はすべて動詞連続。

LPはどんな言語にある？

ブヌン語（Nojima 1996）

サアロア語（Pan 2012）

シラヤ語（Tsuchida 2000, Adelaar 2004）

サイシヤット語（Zeitoun et al. 2015）

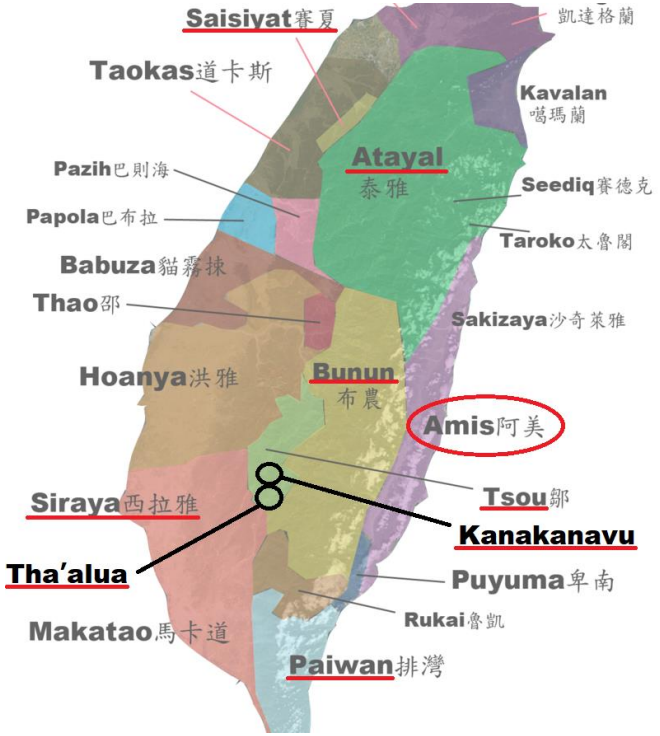
ツォウ語（Chang 2009）

カナカナブ語（Wu 2023）

パイワン語（大谷 2022）

アタヤル語（Yeh 2016）

アミ語（'Amis）は？　→　これまで報告なし



画像出典（2022年12月30日閲覧、一部改変）：
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8F%B0%E6%B9%BE%E5%8E%9F%E4%BD%8F%E6%B0%91

LP の特徴（その1）

すべての言語に現れる特徴ではないが、最もLPが豊富・生産的な言語（ブヌン、ツォウ、カナカナブ、サアロア、シラヤ）にはいくつかの典型的な特徴がある。

A. 接辞調和（prefix harmony/prefix concord）: 動詞連続で両方の動詞に同じLPが現れる

(4) ka **mali**-kaha-atu **mali**-daaewa ta kidi
and away-end-(強調) away-past NOM time
"and the time is now past" (Tsuchida 2000: 121 シラヤ語)

B.「動詞類別詞（verb classifier）」のような機能があり、動作の具体的な様態を表す

(5) **pit**-utmag-un ma-pit'ia tatsu-tilas (Nojima 1996: 16 ブヌン語)
LP(cook)-carelessly-PV AV-cook one-uncooked
"(She) carelessly cooked a grain of rice in one piece, without breading it apart."

LP の特徴（その2）

C. 語根の直前にスロットが1つだけあり、LPが1つだけそこに入る

(6) **‘ik**-tagus m-aun
LP(eat)-first AV-eat
“eat first” (Nojima 1996: 20 ブヌン語)

D. 接辞の意味に対応する独立した語がある（Nojima 1996: 22-23 ブヌン語）

kit- vs. kalat “bite”, k- vs. kaun “eat”, pan- vs. painuk “wear” etc.

kali- vs. ludah “hit”, kalin- vs. sinap “chase”, tai- vs. panah “shoot”

パイワン語、サイシヤット語では以上のうちAとCは見られず、CについてはLPスロットが2つあるようである（大谷 2022 および個人通信）。

LP の特徴（その3）生産的なLPも

語彙的接頭辞を用いて即興で単語を作ることができるようである。

(7) mis-piha

　燃える-足が不自由

「燃えた結果足が不自由になる」

→この表現はある民話で出てきたが、聞き取り調査では「そういう言い方はない」とコメントされたことがある

ブヌン語ではこのような生産的なLPと、非生産的なLPの2種類があり、明確に区別ができる。（以上のこのページの情報は野島（個人通信）による）

これまで述べてきたような特徴から、ブヌン語などの言語ではLPという範疇が文法記述に非常に便利である。それではアミ語はどうだろうか？

アミ語にLPはあるか(1)

管見では「アミ語のLP」という観点の研究は存在しないが、LPという観点からアミ語を見て見ると、いくつか近いと思われる例が存在する。以下の a-g の接辞の例は蔡・曾 (1997) より抜粋。

a. li-「剥がす、取る」	
kanoos 爪	li-kanoos 爪を切ること（mi-li-kanoos 爪を切る、mi- は動詞接辞）
ngisngis ひげ	li-ngisgnis ひげを抜くこと（mi-li-ngisngis ひげを抜く）
fanges 皮膚	li-fanges 皮を剥ぐこと（mi-li-fanges 皮を剥ぐ）
neknek 沈殿	li-neknek 汚物を水中に沈殿させること
ta'ang 大きい	li-ta'ang うぬぼれること
tosa 2	li-tosa 半分にすること

※接辞の意味が明確でないものも多い（これはブヌン語などにも同様の例がある）

アミ語にLPはあるか(2)

b. ki-「置く」			c. sa-「作る、為す、道具」	
cidal 太陽	ki-cidal 太陽にさらすこと、日光浴		senat 土ならし	sa-senat 土ならしの道具
loma‘ 家	ki-loma’ 家に身を寄せる、家に保管		toro’ 指さし	sa-toro’ 指さす方向
omah 田んぼ	ki-omah 田んぼで穀物を守ること		kowan 管轄	sa-kowan 権威、権力
tira そこ	ki-tira そこから開始すること		warak 中毒	sa-warak 毒薬
sa‘mel 涼しい	ki-sa’mel（～で）涼むこと		ta’ang 大きい	sa-ta’ang 拡大
hamon 参加	ki-hamon 進み出ての参加		kapah 青年、美しい	sa-kapah 美化、修飾
lawa 漏れ、省略	ki-lawa 落穂拾い		kohcal 白い	sa-kohcal 漂白
kaka 年長者	ki-kaka ～より優れている		nga’ay 良い	sa-nga’ay きちんとやること

アミ語にLPはあるか(3)

d. la- 「なる」			e. ta- 「能力がある」	
toko 巻貝	la-toko 巻貝になる		kongkong 鳴り響く	ta-kongkong 銅鑼
kapah 青年	la-kapah 大人になる		epip 笛を吹く	ta-epip ホイッスル
hopor 粉末	la-hopor 分解・崩壊		felac 米穀	ta-felac 米の保存
wina 母	la-wina 母子関係		mata 目	ta-mata 視力上昇
hakelong 同行	la-hakelong 同行		liok 周囲	ta-liok 回り、巡視
ta'ang 大きい	la-ta'ang 自負		likat 着火、発光	ta-likat 引火
tayal 仕事	la-tayal 勤勉		ino’ 入浴	ta-’ino 入浴用
radiw 歌	la-radiw 歌がうまい		hapinang はっきりさせる	ta-hapinang 弁別用の道具

アミ語にLPはあるか(4)

f. ha- 「～に使う」（？）			g. si- 「～に面する」	
fadahong 屋根	ha-fadahong 屋根用のもの		wali 東	si-wali 東向き
cafay お供	ha-cafay お供になる人		‘ayaw 前	si-’ayaw 前面向き、相対
terter 転ぶ	ha-terter 転倒、尻もちを搗く		mihcaan 年	si-mihcaan 一年中
pinang 明確	ha-pinang 弁別、明確にする		dateng 野菜	si-dateng 余分なものを摘み取る
fikod 絆	ha-fikod 衝突		mangta’ 生の	si-mangta’ 生で食べる
cikay 速い	ha-cikay 速く走る、加速		do’do 従う、従属	si-do’do ある方向に従っていく
emin 全部	ha-emin 全部終わらせること		kaen 食べる、食べ物	si-kaen おかず、料理
cecay 1	ha-cecay 一個一個取ること		fana’ 知識、知っている	si-fana’ 指導

※ha-pinang については e の ta-hapinang を参照：ta-ha-ダブル接辞が可能

アミ語にLPはあるか(5)

その他にも化石化していると推測できるような接辞がある。（以下の情報は呉 2013 より）

h. hi- (?)「下（？）」	
hi-cefa 着地、降下、落下	cefa 間違い、不正
hi-naker 放置する、置く	*naker（呉2013に掲載無し）
hi-nanoy つるして揺らすこと	nanoy つるすこと
hi-nefa うつぶせになること、伏せること	*nefa（呉2013に掲載無し）

※ ki- や ha- なども化石化して語根が析出できない可能性のある例有（kicapos, hado'do など）

1音節接辞で同じようなパターンは a-h の8つしか見つかっておらず、かなり少ない（探せばもっとある可能性は高いが少なくとも目立つものはない）。li-, sa- などは多少生産的かもしれないが、語根と一体化しているような例が多く、生産的なものは少ない。

独立した語との対応

接辞と和訳	対応語？
li- はがす、取る	kitkit, ala
ki- 置く	teli
sa- 作る	sanga'
la- なる	？
ta- 能力がある	fana'
ha- ～に使う	？
si- ～に面する	'onapa

→あんまり対応していない。

アミ語にLPはあるか(6)

その接辞だけで動詞を作る二音節の接辞もいくつかある。

接辞	語根	接辞＋語根
hato- ～に似ている、～のよう	'ayam 鳥	hato-'ayam 鳥に似てる、鳥のよう
ala- 分ける、充満	tolo 3	ala-tolo それぞれ3つ
tala- ～に行く	'amis 北	tala-'amis 北に行く
pako- 自ら～と認識する、～に基づき望む	so'lin 真実	pako-so'lin 信じる
tano- 唯一、ずっと～	tireng 身体	tano-tireng 身一つ
	tangic 泣く	tano-tangic ずっと泣き続ける
mako- 端、周辺	lawac へり	mako-lawac 各辺、各角

★これらの接辞は比較的生産的に使用可能。

ブヌン語などのLPとの比較

★抽象的な意味を持つ語幹に付属する？／分類接辞の役割がある？

→そういう例もあるかもしれないが中心的なものではない。

★接辞調和がある？

→見つかっていない。

★語彙的接辞のスロットがあり、語につき1つしか出ない？

→sa-li-「剥がしたり抜いたりする道具」ta-ha-（ta-ha-pinang「弁別する」）のように接辞を組み合わせることができる

※ただしこれらの特徴はLPの判断基準とするべきものではなく、あくまで「LPの特徴が明確な言語におけるLPとどのぐらい近いか」を検討しているだけ。

結論：アミ語にLPはあるか（＝アミ語の記述にLPという概念・範疇は便利か）

1. ブヌン語などのLPに類似の接辞はあるので、LPという概念を記述に利用できないことはない。

2. 1音節の接辞は生産性が低く語根と一体化しているような例も多い。数もかなり少ない。2音節の接辞は生産的で数が多いが「比較的具体的な意味がある」ぐらいしか特徴がない。LPとして目立つ特徴が少ない。

3. したがって、アミ語の記述では、それらをLPとして1つの範疇にまとめてその他の接辞（態の接辞、名詞化接辞、場所・時間の接辞など）と明確に区別をする利点があまり見当たらない。

4. 「台湾原住民語におけるLP」という観点で対照すると、LPの活性は以下のような順となりそう（野島（個人通信）の提案を元に作成）。これは地理的な要因が関連しているようでおり、台湾中心部の言語ほどLPが活発なようである（Chang 2009: 472）。

強い		弱い		無い
ブヌン サアロア カナカナブ	ツォウ シラヤ	パイワン サイシヤット	アミ アタヤル(?)	ヤミ	フィリピン諸語

参考文献と謝辞

Adelaar, K. Alexander (2004) “The coming and going of ‘lexical prefixes’ in Siraya.” *Language and Linguistics* 5.2, 333-361.

蔡中涵・曾思奇 (1997)『阿美語母語語法結構分析』台北: 財團法人台灣原住民文教基金會.

Chang, Yuan-Li (2009) “Adverbial verbs and adverbial compounds in Tsou.” *Oceanic Linguistics* 48.2, 439-476.

Nojima, Motoyasu (1996) “Lexical prefixes of Bunun verbs.” 『言語研究』110, 1-27.

大谷青渚 (2022)「周辺言語との比較により明らかになったパイワン語の語彙的接頭辞の特徴」京都大学大学院演習発表資料（2022年12月2日）.

Pan, Chia-Jung (2012) *A grammar of Tha’alua*. PhD thesis, James Cook University.

Tsuchida, Shigeru (2000) “Lexical prefixes and prefix harmony in Siraya.” *Oceanic Linguistics* 29, 109-128.

Wu, Chunming (2023) “Prefix copying in Kanakanavu.” Manuscript

吳明義 (2013)『O pidafo’an to sowal misanopangcah 阿美族語辭典』台北: 南天書局.

Yeh, Maya Yu-Ting (2016) “The semantics of s- and t- in Squliq Atayal: The embodiment of language.” Presented at *SEALS* 26, Manila, on May 27, 2016.

Zeitoun, E., Chu, T., & Kaybaybaw, L. a tahesh. (2015). *A Study of Saisiyat Morphology*. University of Hawai’i Press.

ブヌン語、パイワン語などについて様々な情報をくださった野島本泰氏、大谷青渚氏に感謝申し上げます。